

「令和4年度 第1回 徳島県観光審議会」会議録

【日時】 令和4年12月2日（金） 午後3時から午後5時まで

【場所】 徳島グランヴィリオホテル 1階 グランヴィリオホール

【出席者】

1 委員（25名中19名出席）

矢田博嗣会長，梯学副会長，内藤佐和子委員，美馬友子委員，佐野美佐子委員，濱野正裕委員，小倉一仁委員，金原克也委員，近藤明子委員，澤田康子委員，近藤有紀委員，杉田弘樹委員，武知実波委員，飛田久美子委員，東丸定子委員，西村洋子委員，轟真美委員，Gehrtz三隅友子委員，池上治徳委員

2 県

飯泉知事，商工労働観光部長，観光政策課長 ほか

【会議次第】

1 開会

2 徳島県観光振興基本計画（新計画）の策定に係る諮問

3 議事

- （1）徳島県観光振興基本計画に基づく施策の実施状況について
- （2）徳島県観光振興基本計画（新計画）の骨子案について
- （3）意見交換

4 閉会

【議事録】

1 開会

飯泉知事から挨拶

2 徳島県観光振興基本計画（新計画）の策定に係る諮問

徳島県観光振興基本計画（新計画）の策定について、
飯泉知事から徳島県観光審議会・矢田会長に対し諮問

3 議事

- （1）徳島県観光振興基本計画に基づく施策の実施状況について
- （2）徳島県観光振興基本計画（新計画）の骨子案について
- （3）意見交換

事務局から配付資料に基づき、（1）、（2）について説明。その後、意見交換が行われた。

【意見交換】

(矢田会長)

はい、ありがとうございました。

ただいま、事務局の方から議事（１）・議事（２）につきまして、ご説明がありました。

大変、文書量も内容も盛りだくさんで、事前に資料を読まれた方もいらっしゃるかと思いますけれども、コロナ禍で久しぶりに皆さんリアルで集まって、また、メンバーも変わりましたですね。

初めてお越しになっている方もたくさんいらっしゃいますので、効率良くテンポ良く、多くの皆様に発言をいただきたいと思っておりますので、誠に恐縮ではございますけれども、こちらで美馬委員から回って行って、3分くらいずつでないとも時間が足らなくなるかと思っておりますので、ご発言いただきまして、今の議事のご質問と、あるいは日頃、徳島県の観光についてこういうことが自分のエリアで特に必要ではないかと、この辺のことも含めて、多種多様の意見を、じゃんじゃん出していただければと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

事務局からの回答は、やりとりをしていると時間がかかるので、質問があった部分には、事務局からまとめて回答いただくという形でいきたいと思っております。

時間が多少残ればですね、どうしても言い足りなかったこと、という部分をもう一度発言の機会ができればなと思っておりますので、勝手に申しますがどうぞご協力をよろしくをお願いします。

それでは、美馬委員、どうぞよろしくをお願いします。

(美馬委員)

はい、みなさん、はじめまして、勝浦町議会の美馬と申します。

本日はどうぞ、よろしくをお願いします。

私も昨年、この会に参加してきていろんなことを申し上げておりますが、デジタル化の推進ということで。

日本はとても綺麗で清潔です。徳島も素敵などころがあるんで、インスタとか、SNS、もっともっと情報が足りないのではないかというところがあり。

うちの勝浦町もそうですが、いろんなとこアップしようじゃないか、ということなんですが、まだまだもっともっと上を目指せるのではないかと思います。

また、万博を目の前にして、如何にして徳島県に寄ってもらうかというところ、どういうところを戦略的に考えているのか、ということ。

うちの勝浦町の化石発掘、これからひょっとしたら大きなものが出るかも分らん、発掘体験に、どんな風に結び付けていくのかっていうところが、まだまだDMO観光推進協議会のところで見えてないような。

私たちが町として予算も上げておりますけれども、DMOの動きが私たちがまだ議会の方でもしつくりこないという話もされているので、そんなところも力を入れてもらいたいなと思っております。

それから、とくしま応援割とか、全国旅行割、先程知事の挨拶にもありましたけど、どれくらいの方が活用（したか）、人数も言われましたが、他県との比較をしたデータをどんな風に見ていくのか、ちょっといろいろ調べてみても分からないので、そんなをデータ化して、私たちが現実を知って、もっともっと施策がいるのではないかな、というところに目を向けていきたいなと思っております。

それから、昨年私の意見で申したところは、田舎に来てもらうということが、とても都会の人には魅力的ではないかな、という事で。

一宇とか、にし阿波の農業遺産のところでお話を聞いた時に、高校生の体験談で、体験をして1泊2泊して、「徳島が第2の故郷になった」と涙ながらにいきがっていた男の子達が話していた、ということ聞いて。

やっぱり都会の子には田舎の生活、ご飯を炊いたり、野菜を作ることを手伝ったり、ということが、とっても大事なことはないかなというところで。

にし阿波だけでは足りないんですね。南の海とか山とかそういうところで観光ができれば、目指していけるのではないかな、ニーズがあるのではないかと思うんで、その点もまた次回見ていけたら、見ていただきたいなと思います。

(佐野委員)

徳島商工会議所女性会の会長をしております、佐野と申します。

私も初めての参加で、今までは書類をいただいて目を通すという形でこの委員会に参加してまいりましたが、本当に色んなことを色んなエリアで頑張っているな、というのは書類を見せていただいてよく分かります。

ですけれども、私いつも思うんですが、徳島県人として、まず観光で県外から降りた時に、徳島駅、JRで降ります、バスで徳島入りします、ってその駅で降りた時に、その駅前の寂しさ、本当に常々思っているんですけれども、徳島駅があります、それで反対の方を見たら眉山があります、ロープウェイがあります、新町川が横のラインで流れています、ここが本当に寂しいんですね。

まず、観光に徳島に来てください、こんなに良いところありますよ、頑張ってますよ、って見ているのに、なんであの徳島駅の周辺は寂しいんでしょう、というのをいつも思います。

この徳島の駅前の状況を、何か変えるような、方向の計画があるんでしょうか。

私はこの委員をして（いるので）、こういう風にいろんなエリアで、徳島も頑張っているのかなと思うことは色々見えますけど、そうでない徳島県人は、そういうことも多分（見えない）。

この頃ほんとにインターネットの世界なので、入れば色んなことが見えるんでしょうけれども、それを徳島県人が知らない、というのが。

だから、地域割いただいて、色んなところに行けますよと言っていただいても、徳島県人が「いや、どこに行ったらいいんだろうな」という風な形で、「なかなか、ほんとに一生懸命探さな、なかなか行きたいところ見付からない」というのが、私たち、一般の県人の意見。

これどなたに聞いてもそういうお話聞きますし、県外からお客様を招いた時に、徳島駅の周辺のどこにお連れするの恥ずかしい、あそこでヤシの木がばあっとこう眉山まで繋がって、何かインパクトのある徳島駅周辺にならないかなと。

これ、観光の一つの第一歩の入り口になると思ってるんです。

そこがあまりにも寂しすぎるし、他県に行ったら「わあ、すごいな」と思うこともたくさんあるので、まずそこから、見えるところから着手を、観光の入り口（から着手）をして欲しいなというのが、常々思っていることなので。

いつもレポートを書いてください、ということで書くんですけど、私の言葉で皆さんにそういうこともお伝えせんと、なかなか私の気持ちもわかっていただけないかなと思いますし、ある程度私も、この年になりましたら、徳島県の次の世代の子どもたちに、徳島県で色んなこの状況の方を送っていかないかんとときに、なんかそのとこ忘れてませんか、第一歩を忘れてませんか、観光の事についてはいつも思っております。

今日はこういう機会です、直接参加させていただいて、こういうお話ができてよかったと思いますので、どうか、徳島駅の周辺、もうちょっと何か、来て「ああ、徳島だな」と思えるような雰囲気づくりを目指していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(濱野委員)

徳島県物産協会の会長をしております、濱野でございます、よろしく申し上げます。

佐野さんほどは熱くは語りませんが、そこそこ喋りたいと思っております。

銘品を作り、製造し販売するというのがメインなんですけれども、やっぱり観光と切って切り離せない関係にある訳でございます。

コロナになります前から同じような感じだと思っておりますけれども、だいぶましになりましたけれども、コロナの波と同じように、上ったり下ったりというのが今の業界の現状でございます。

県の方もいろいろ考えてやってくれてるんですけども、なんか最近って売り方も広報の方も、すごい、色んな広がりを見せてるんですね。

ターゲットとするゾーンもいっぱいありまして、なかなか絞り切れないと、いろいろと悩んでいるところでありまして。

県の方もいろんなことをされてまして、非常に助かるんですけども、ただ、あまりにも広がり過ぎて、ちょっと分かりにくくなっているところもあるんですね。

ですから、もっと単純にですね、もっと絞り込んでいただいて、広報していただく方が、我々にと

りまして分かりやすいし、入っていきやすいかなと思っております。

で、コロナになりまして、いろいろ輸出の案内もいただくんですね。

中小企業でも普通に輸出できるチャンスとか、それは非常に有り難い話なんですけれども、県の方は、商工の方で輸出、農水もあって3つくらい確か担当があるんですよ。

で、その3つから案内をいただくと非常に分かりにくいと、それは前から思っておりまして、それはよく聞く話なんで整理すればいいんですけれども、整理しきれないところもありますのでその辺を。

高知なんかは、その海外の輸出の分に関しましては、一つに部署をまとめていると聞きますし、できれば徳島もそういう風に、一つに重ねて案内された方が、より業者としても分かりやすく入っていけるんじゃないかと思っております。

もっとう、ターゲット、ゾーンを分かりやすく絞っていただいてより簡潔にさせていただいたほうが、業者的には嬉しいんじゃないかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(矢田会長)

続きまして、四国運輸局から、お越しいただきました、小倉部長、国の立場から、徳島に対するアドバイスなり、日頃のご意見とかご感想がありましたらお願いいたします。

(小倉委員)

四国運輸局観光部長の小倉と申します。

4月からこのポストについて、四国全体の観光を所管しております。

中央での観光庁といいますか、そういったところでの観光行政の全体の動きとかも見るようなこともありますので、そういった立場を踏まえて、意見を述べさせていただければと思います。

その中でもいくつかありまして、一つは、今回新しく計画を作られるというお話になるんですけれども、我々みんなで作っていく感じですかね、観光庁の方でも交通政策審議会観光分科会というところに同様に大臣から諮問して、観光立国推進基本計画を改定する動きがあります。

そういった中で、どういう形でどういう風にしていくのか、2千何年までにインバウンド何万人とか、消費額何兆円とか、そういう目標を掲げられていくんじゃないかなと思うんですが、私からのお願いといたしましては、タイミング的に揃っていますので、中央政府の動きも含めた方針と整合的なものにしていただけると有り難いかなと思います。

そういう中で、徳島としての地域の特色を出したような計画にしていくことが大事なんじゃないかなと思います。

そういう点を踏まえまして、例えば資料4で、今後の新しい計画骨子案と書かれていますけれども、この中の、例えばこの基本施策の②とかは、サステナブルツーリズム、これは全世界的にどんどんこれからやってみよう、という動きがあります。

なおかつサステナブルツーリズムというのは、欧米でも比較のお金持ちといいますが、お金をかなり落としてくれる方々に受けるような旅行形態というところがございますので、こういうところはかなり大事になってくるというところはありますので、引き続き、基本施策の中でも大きな軸としていく必要があるんじゃないかなと思っています。

あとは例えば、④のところコロナからの回復とあり、ここに情報発信力の強化と書かれていますが、やはりコロナからの回復に向けては、どういうコンテンツを作っていくかというところがやはり一番大事な点だと思います。

コンテンツというところは②、あるいは③のところに入ってくるかもしれませんが、こういうコロナの回復というところでV字回復していくところがあると思いますので、再掲という形になるのかもしれませんが、コンテンツの造成をしていくのは大事なんじゃないかなと思うので、そういうところも、④のところに明記していただくのもありんじゃないかなと考える次第です。

あとは、我々ヒアリングをさせていただく中で、宿泊施設、宿泊業界の方で人材不足というのはかなり声としていただいております。

やはりそういう点もこういうところで触れていく必要があるという風に思いますし、我々も国土交通省観光庁としても、そういった点はかなり支援していこうという動きが、今日恐らく成立するであろう、補正予算案の方でも盛り込まれる話になると思われまますので、どういう形で解決していくか、一つは、やはり賃金を上げる、これが一番大事だと思うんですね。

そういったところを、どういう形で支援していくかというところで、例えば、我々が申し上げているのは、DX化していくとか、あるいは、生産性を上げて収益性を高める、要は一泊何万円のところを更にもう一万円足すとかですね、そういう風に堂々と取れるようなものにしていくというものに対して我々のご支援するという枠組みを作っており、そういうことを誘導するような形に我々していきたいと思っていますので、是非とも計画にも、人材不足を補う策として、そういうものもあるんだ、というところも触れていただければ有り難いなというふうに考えております。

(金原委員)

バス協会の金原でございます、本業は徳バスの社長になります。

徳島バスの11月の収入状況なんですけれども、2019年度比で路線バスが87%、高速バスが69%、観光バスが久方ぶりに100を超えたというような状況でございますが、この実は11月26日の土曜日、徳島駅前から難波行きのバス、高速バスにつきまして、始発の5時15分から10時まで、満席で乗れないという状況をしてしまいました。

これはですね、従来徳島の皆さまって、駅前に行ったら、徳バスって満席でも続行便をどんどん出してくれるだろうと、予約せんでも行ったら乗れるだろうという信頼感を持っていただいていたと思うんですが、実は私ども、コロナの中で300人いた運転手を17人減らさざるを得ない状況にありま

して、たまたまこの日は観光バスが遠足、修学旅行が春が駄目だったので秋にしてる、というものがあって、観光バスも全部出払っていると、という状況の中で、この日臨時便を5本出してるんですが、それでも間に合わなかった、というような状況。

でもこの数字でも11月の交通バスの売り上げっていうのが19年度比69%。

皆さまの業界でも、さきほど小倉部長も仰いましたけれども、従業員を減らさざるを得なかった、という事業者の方多いと思うんですね。

ここにきて回復傾向にある中で、どうその売り上げが返ってきた中で、サービス水準を維持するかということについて、自覚するというか、そこを見ないとですね、お客様にしつぺ返しが起きるんじゃないかなという風に思っております。

で前回、前々回のこの会議の中で数値目標ということをずいぶん議論しましたけれども、もちろん数値目標の数字だけではなくて、その数字もしっかり評価をしないと、サービスの水準を維持しないとやはり大変なことになるんだろうなと思っております。

ボリューム的には2025年の万博に向けて、キャパを上げていくんですが、それまでにキャパを上げると同時にですね、今やってるのは、県の次世代交通課とか四国運輸局とかに設置いただいて、JR四国さんに、今まで競争関係にあって殆ど没交渉だったんですが、鉄道とバスが連携して、鉄道と平行するバス路線については、できるだけ鉄道に転移させて、バスは駅から地域を結ぶ、という方向に転換する作業をしておるんですけれども、このような事態を起こしてしまったということは、皆さまの業界でも起こるんじゃないかなと思っております、数字だけではなくてやっぱり、その中身もしっかり見なくてはいかんな、ということ、わたくしたちは反省と自戒をもってご報告をさせていただきます。

(近藤(明)委員)

四国大学の近藤でございます。

3件ほどコメントをさせていただきたいと思います。

まず1点目なんですけれども、先ほど数値だけではなくて質が大事なんだよ、というご指摘がありましたけれども、事務局からのご報告で、年間の観光消費額というのが目標を達成したという中で、補助等の施策があって、この目標が達成されて、で実際補助がなくなった時に、観光客はどうなるのか、というところがまた一歩、次のステップとして重要になるかと思えます。

今はしっかり補助をしてその施策の上で目標を達成するという道筋の中にあって、次のステップとしては、やっぱりそれがなくなった時、というところで、どのような人にどういう風に徳島を好んで来ていただいているのか、そういう分析をしておかないと、次の打つ手がないかなと思えますので、今来ていただいている方、方々のご意向とか、どういうところを魅力と思っていられるかということも分析が必要ということ、プラス新しい人たちを呼び込むための施策というのも積極的に行ってい

く必要があるのかなという風に感じました。

で、観光促進の面だけ、そういう側面だけでなく、観光を促進することによって転入が増えたりとか、あとは関係人口というのもどんどん増加するという、観光にはそういうチャンスもかなり多くあると思いますので、ほんとにしっかりと取り組んでいかないといけない分野かなと思っております。

2点目ですけれども、先ほどの移動するということのお話と関連するんですけれども、移動利便性は高まって、もしかすると、ずっと通り抜けられてしまうことっていうのもあるかと思えます。

で、移動のしやすさ、っていうこの交通の利便性っていうところと、移動そのものが魅力的である楽しさ、みたいなのを創出できるような移動の工夫が必要かな、ということと、それプラスで泊まってもらえる、夜楽しんでもらえるような、仕掛けづくりというの併せて必要になってくるのかなという風に感じております。

3点目が、先程来お話があります万博につきまして、徳島パビリオン等で、徳島の住まい方、スローライフをはじめとする住まい方、暮らし方というところと、サステナブルなツーリズムというところを十分にアピールして行って、万博までの間にしっかりと徳島に来てもらえるようなルートづくり、で、万博が終わった後も、そのルートをしっかりと確立されるような仕組みを作っていくかという風に感じました。

(澤田委員)

日本航空の澤田と申します、どうぞよろしくお願ひいたします。

航空業界の今の状況を簡単にご案内させていただきたいと思ひます。

応援割旅行割などの影響がございまして、徐々に国内については回復傾向にあります。

ただし、まだ60%半ばぐらいの回復状況であります。

一方で週末はかなり、70パーセント以上のロードファクターも出て参りましたので、この応援割、様々な施策の影響はとてよく出ているのかなと思ひております。

一方で海外からのお客様になりますと、まだまだ回復には及んでおりません。

で、海外のお客様、特に、欧米からのお客様は、個人で旅行される方が多いので、どちらかという体験型、または文化を色々知りたい、そういったことに重きを置いて旅行先を選ばれているようございまして。

それにおきましては、徳島に、最近なんですけれど、空港で到着してバスが出ているんですが、そのバスにお乗りいただけない、というお客様というのも少々出てきておりまして、そういった時にやっぱり二次交通の脆弱性を感じるございまして。

徳島の空港に降り立っても、その先どのようにしていけばいいのか、レンタカーを使えない方がどのようにしてその目的地まで行けるのかということ考えたときに、なかなか国内の方も含め、海外の方にはその先にたどり着く部分が少なく、一方で、団体でお越しいただくかという、どちらかと

いうと、個人で旅行することに志向が高まっている、ということがありますので、そのあたりの何か解決策を考えていけたらと思っております。

また県外への宣伝、告知というものにつきましても、もう少し力を弊社も含めて入れていきたいな、と思っております。

具体的に言いますと、どこが徳島がいいのかという、ある意味とがった部分というのが、なかなか伝わっていないというのを感じる事がございます。

今色々と多くの方がお越しいただくようになってはいますけれども、その方々がもう一度来たいかという、どうなのかな、という部分がありますので、そのリピートをするための施策といいますか、手立てといいますか、一回だけで終わらないような仕組みも工夫していきたいなと思っております。

(近藤(有)委員)

徳島経済研希有所の近藤と申します、どうぞよろしく願いいたします。

本日のお話をさせていただくにあたって、四国運輸局の小倉部長のお話もあったと思うんですが、サステナブルツーリズムについて注目されていられるところと、本当に海外のお客様、かなりお金を落としていただいている、というところで、今後、量より質というところの観光を推進していくべきかと思っております。

国の方もそういった方針をとっていらっしゃると思っております。

それで観光データの活用というところですね、県の基本施策のところにも挙げられていると思うんですが、観光消費額のところをもう少し広く、宿泊や飲食、交通、買い物などといったような消費額をですね、アクティビティごとにアップできるような形でされていきましたら、より具体的なデータの方が取れるのではないかと思います。

各観光業者の方もそういったデータの方を活用していただくようなことで、より地域のブランド力の向上などにも繋がっていくのではないかと思います。

可能なところでそういったデータの方を公開していただくような取組をしていただければ、大変徳島の観光の推進の方に力になるのではないかなと思っております。

人手不足というところですね、ヒアリングなどに行かしていただく中でも多く聞かれるようなことだと思っております。

こちらの方もですね、各事業者さんと連携していただいてPRなどもしていくような必要があるのではないかなと思っております。

研究所の方でも会議など設定させていただいて、皆さまと連携させていただいて、観光のことを考えさせていただいておりますが、引き続き、皆さまと一緒に徳島の観光についてどういう風にしていくべきか、考えさせていただければなというふうに思っております。

(矢田会長)

ありがとうございました。ここまでで事務局何かコメントがありましたら。

(利穂課長)

貴重なご意見どうも皆さんありがとうございます。

先程来から一番お伺いするのは情報発信ですね。

やはりこう、いまいち足りてないのではないかと、ターゲットを絞ったほうがいいのではないかと、ご意見をいただいたりして、まさにそのとおりで思いまして、現在、県においても、デジタルマーケティングを実施しておりまして、どういった方が興味を持っているのかとか、どんなことに興味を持っているのかということについて、調べているところございまして、例えば、ファミリー層がどこに興味を持っているのかとか、一人旅でどちらの方に興味を持っているのか、そういったあたりを今、デジタル上で調べておりまして、その結果をまた活かして、ペルソナですね、どういった方が徳島県にとって効果的なのか、というのをターゲットを絞って考えていきたいと思っております。

既にですね、宿泊者数の増加を目的には、「あるでないで協議会（プロジェクトチーム）」とか作っておりまして、そちらのほうで、宿泊業者と交通事業者様等と連携しまして、どんな方が一番受けそうか、徳島にとってですね。

関東方面とか、ちょっと今コロナ禍でなかなか、ターゲットを絞り切れていないところがあるんですけども、東京から飛行機、先程支店長（澤田委員）からお話しがありましたけれど、回復になってますので、東京からとか関西も当然そうですけれども、これらの結果も踏まえてまた考えていきたいと思っております。

あと、ご意見があった中で、人材不足ですかね、そのへんが結構お話しに出ておりましたので、こちらも、観光のみならず全体的なことかと思っておりますので、観光でできることがあれば、ということで、色々考えてみたいと、ご意見を頂戴して検討してみたいと思っております。

それから、量より質、ということをご委員さんからいただきました。

やはり、徳島県も、宿泊者数、施設のキャパ数自体がそんなに多くございませんので、やはり量というよりは質で勝負して高める必要も、本県にとってもちょうどいいのかなというふうには感じているところがございます。

あと、マーケティングにもかかってくることなんですけど、他県から来て、どのようなところに行っているのかということで、今ちょうど旅行割がありますので、そういったものも使ってですね、宿泊、県外から来られた方が（周遊クーポンを）どういったものに使われているのか、どういったアクティビティ、どういったものを見るとか、行っているのかとか、そういう流行も掴めるのではないかなと思っております。

その辺のデータの活用に向けて検討をさせていただきます。

(矢田会長)

ありがとうございました。それでは引き続き後半です。
杉田支店長、よろしくお願いいたします。

(杉田委員)

JTBの杉田と申します、よろしくお願いいたします。

骨子案の中にあります、観光コンテンツの充実ですね、それから、改定版の中にもありますけれども、新たな観光コンテンツの発達と磨き上げ、それから旅行商品化や販売促進を行うとある、まさにこの部分だと考えています。

基本の数値目標が宿泊者数、引いては観光消費額ですので、そういったコンテンツの充実をさせることによって、徳島を訪れるきっかけになったり、滞在時間の延長に繋がったり、引いてはインバウンドの誘客にも繋がるという、そして本県の満足度の向上に繋がるといったことだと思いますので、そういった着地型コンテンツを拡充して発信していくような取組、これを是非お願いしたいと考えております。

それから、私、旅行会社の人間ですので、計画の中に、観光セミナーなど、旅行会社向けの情報発信、こちらの方は有り難く感じています。

で、発信いただく内容でもですね、単なる観光地の紹介というではなくて、やはり旅行会社がそのまま利用できる形まで仕上げた着地コンテンツですね。

こういったものをプレゼンして商品化してもらうことが理想かなと思います。

既に観光事業者が商品化しているものもありますし、現在進行形で取り組んでいるものもあると思いますので、それらを取りまとめて、発信いただくだけでも違うのかな、と思っておりますのでよろしくお願いいたします。

後は、旅行会社の造成サイクルに合わせたタイミングであったり、情報であったりすることというのも大事になってきます。

釈迦に説法なんですけれども、観光セミナーを4月、5月に開催するとなった場合は、その年の10月以降、10月から3月頃の情報提供になりますし、セミナーを9月から10月に開催するのであれば、翌年4月から9月の情報提供になると思いますので半年前からですね。

半年前にできるだけ、具体的な観光情報を固めて発信をすると、いうこともお願いしたいと思しますので、合わせてお伝えをしておきます。

(武知委員)

皆さんこんにちは、武知実波と申します。

私プロサーファーをさせていただいております。

こちらの計画にもサーフィンという文字を入れていただいているように、皆さんもご存知の県南地域をはじめとして世界に誇ることができるサーフコートというものを徳島県は有しております。

この自然の魅力、本当に唯一無二な人工的でないここにしかない資源というのはやはり地域の資源として、本当にかげがえのない魅力だと考えております。

実際にそれを一つの魅力として、それに魅了されて、このコロナ禍ではネガティブな側面も多かったと思うんですけど、ポジティブな側面として、県外からの移住者であったり、そういった方々が、自然の中、自然に魅了されて、その中でできるだけ、人と密になる都心部ではなく、地方に家族で引っ越して生活を始めるというような方も、全国的に、実際に関東であれば湘南部であったり、あとは宮崎県であったり、やはり沿岸で住むというようなライフスタイルがこのコロナの影響でより増加傾向にあると私も伺っております。

また、このアフターコロナというところでコロナと付き合いながら、観光もしていくというところで、コロナの時にサーファーが実際に増えました。

全国的に増えたんですけども、そういった方々がそのままサーフィンを継続して、沿岸部に観光も含めて来るといような傾向は、これからも増加すると予想しています。

そのため、今回作っていただいている施策の方に是非、スポーツツーリズムも追加していただければ、効果的なツーリズムの交流人口の増加に繋がられるのではないかなと考えております。

来年の4月に、ちょうど県境の生見海岸というところになるんですけども、そちらで日本ジュニアサーフィン選手権大会が行われます。

そちらは、来年度、ちょうどオリンピック、パリのオリンピックですね、24年の年のジュニアの日本代表を選考するような大事な大会になります。

そういった国内外から注目のあるような大会が実際徳島県の隣りになるんですけども、私、大学院でサーフィンツーリズムの研究をしたんですけども、その時には西日本選手権大会を生見海岸でやった時に92.9%の方が、徳島県を通過して、その海岸に向かいます。

そして消費活動を徳島県で殆どの方がやられています。

私はこの点にすごく着目すべきだと思っておりまして、県南に県外から来られる方に対して、どう徳島県魅力を、食であったり場所であったり観光地というのをアプローチしていくのか、というところがすごく重要になってくると思います。

なので、来年はそういったジュニア選手権大会、そして26年に名古屋・愛知でアジアオリンピックと選手権も開催されます。

関西広域連合でマスターズがあると思うんですけども、それと位置付けとしては、同じくらい重要なものになると思います。

そういった事前の合宿を誘致するであったり、まず来ていただく可能性のある人をターゲットとし

て、スポーツ関係でそういった人達をターゲットとして、その人たちが食であったり、どういうところだったら行ってくれるんだろう、来てくれるんだろう、というようなターゲットを一度、そういったスポーツ選手であったり、サーフィンをする人という風にターゲット付けをして、逆にそのニーズをはめていくというような方法が、この5年ぐらいの間に非常に効果的なんではないかなと思っております。

またこちらの施策にもありました、サステナブルツーリズムというのはほんとに、委員の皆様も仰っているように、これからすごく伸びるところだと思いますし、徳島県は、私の周りも非常に環境問題に意識の高いような若者からそういった専門家の方々であったり、徳島県の視察にも来たことがあるし、行ってみたいところであって、すごく憧れのような場所になっているというように聞きます。

私先月、鹿児島県の大崎町というところに（行ったのですが）、今リサイクル率が日本一をずっと取られている市（町）なんですけども、そちらも市（町）の方が、行政の皆さんがすごいプライドを持って、ツーリズムとしてやってらっしゃいました。

そういった精神を是非、徳島県も町と一緒にリサイクルのことであったり、SDGsのことであったり、アプローチできるような知識を蓄えて、観光にもして行ける可能性があると考えております。

（飛田委員）

飛田です。

徳島の観光の定番であった阿波おどりがコロナ禍で中止になったことで、徳島に住んでいる若い世代の人たちが阿波おどりを一度も見たことがないということが起こっています。

コロナ禍というのは本当に私たちの生活をガラッと変えてしまったな、という風に思うんですけども、その間にやっぱり、人々の興味というのも変わってきていて、アニメやゲームとかですね、そういうものが、一部マニアのものだったりとか、オタクといわれる人のものだったのが、すっかり定番化して、皆さんそういうものに大人も興味を惹かれているようになったんじゃないかなと。

で、今年の夏ですね、コロナが落ち着いた時にどっか皆行こうかなって、旅行を計画された時に、個人的に面白いなと思ったのが、徳島市のアンバサダーに、「駅メモ！」というゲームアプリのキャラクターが就任してですね、そのキャラクターを得るためには、徳島のJRの駅を何個か回らないとそれが貰えないらしいんです。

それを貰うために、全国からたくさんの方がいらっちゃって、グッズの販売もしてたんですけど、3月末までの期間限定でやってるイベントだったんですが、夏の時点でもうなくなるんじゃないか、売り切れるんじゃないかというくらい人気だったそうです。

で、やっぱり今、淡路島なんかだったら施設もどんどんできて、万博に来た人を淡路島に呼び込もうという導線の確保が目に見えてすごいなと思うんですけども、徳島県内でそういった施設だったりとか新しい建物を造って何かするというのは現実的に難しいんじゃないかなと思うので、こういっ

た既存のコンテンツとうまくコラボして、徳島の魅力を発信したりとか、これまで私たちが定番と思っていた阿波おどりだったり人形浄瑠璃だったり、徳島にあるものを、何かこう別の形でPRをしていくとか、何かとコラボしてもっと魅力をブラッシュアップしていくっていうような、観光というものの中味をもう少しこう精査していく必要があるんじゃないかなと思いました。

この計画書に色々書いていただいていることは本当にどれも素晴らしいなと思うんですけども、もっともっとう、若い世代の人たちが、徳島って面白いのね、っていうことを感じてもらえるような、これまでにない視点を盛り込んだ政策というものもあるといいんじゃないかなという風に感じました。

(東丸委員)

徳島県タクシー協会、東丸と申します。

いつも思うんですけども、徳島ってすごく自然が美しくって、海も綺麗やし自然な山も大変綺麗なんですよ。

ですから本当に徳島らしい徳島を見せてあげたいという気持ちでもって、観光客を誘致できたらと思うんです。

徳島らしさをそのまま観光客の方に見せないと、一回は来てくれても、あと二度と来てくれないような、徳島行ったけど、「しんどかったわー」や言うて、帰ってしまうようなお客さんと呼んではだめだと思うんですよ。

何回でも何回でもまた徳島行こうや、と思うようなところに、そういう土地に仕上げていきたいと思います。

ということはやっぱり徳島でなかったら食べられないもの、あるいは徳島でなかったら見られないものとか、徳島の特徴を持たせて、そういうものを一つの観光の目玉にもっていったらと思います。

ですから、ちょっと例を挙げて言いましたら、DMVですね、世界で初といいながら、最初はたくさんお客さんがあったみたいですけど、ちょっと減ったように思うんです。

せっかくあんないいものを作っておきながら、乗りに行っただけで、すっと帰ってこられる方もいらっしゃるみたいなんです。

そこで乗って向こうですごく美味しい魚を食べた、徳島行ったらあんな美味しい食べ物を食べさせてもらった、とかあるいは綺麗な海を見て、あそこの海はすごく綺麗ですよ、自然を見て帰ってきて、また行ってみたいと思うような、そういう観光地に仕上げたらいいと思うんです。

だから、南の方は海、西の方は山、鳴門はレースの町と、色んなことで色々特徴ある地域に仕上げていったら、もっともっとう伸びるんじゃないかと思います。

これから皆さんで協力して、人間的にもサービスをしていく必要もあると思います。

徳島の人は温かかったという気持ちもあってほしいと思います。

全体にそういう気持ちでみんなでやり上げていかなかったら、観光地としての価値は上がっていかないと思いますので、皆さんでやり上げていきたいと思います。

(西村委員)

西阿波の西祖谷地区の方で大歩危で観光地施設を運営しております、西村と申します。

大変なコロナ禍の中を、色々な行政の観光業に対しての応援をいただきまして、この場ですが、本当にありがたいなと思っております。

今現在では観光も少しずつ元に戻りつつあります。

アウトドアのイベントなどもできるようになりました。

で、来年は、三好の方ですが、レスキューの世界大会が開かれるようになりまして、今準備を進めております。

先程知事(事務局)が仰った(資料4)1の⑥、ビックイベントの中にワールドマスターズゲームズというのがございます。

それらのオープン競技として先程も南の方が言ってくれたんですけども、にし阿波地区ではラフティングというものを準備しております。

私たちはこのコロナとどうやっていったら、というのを模索しておりまして、やっぱりにし阿波、徳島県の売り物は自然が素晴らしいというところだと思いますので、ファミリー層や教育旅行などで、自然体験をできる、ということを出して準備しております。

そのためには、このたくさんの施策を出してくれてるんですけど、その施策を早く実行して欲しいな、というのがあります。

で、万博が2025年なので、2024年くらいまでにインフラを改善して欲しいなといつも思います。

知事をはじめ、徳島道の二車線化とかもかなりしていただいて、今日も徳島道で来ましたが、だいぶ二車線になっております。ところが私たちは、三好に住んでおりますので、どこか用事に行く時は、高松道か松山道なんですね、もうそこは全部四車線とかができております、(片側)二車線ができてますので、早く徳島もそれに追いつきたいなど。

今、隣りの方も仰ったんですが、二次インフラ、大変弱いところがありますので、空港からの観光案内のタクシーであるとか、レンタカーの充実をどうやってしたらできていけるかなと思います。

三好の方では、ほぼ徳島ナンバーのレンタカーはないです。

高松ナンバーばかりのレンタカーになっているというような状況です。

あと、全ての旅行は、この頃皆さんiPhoneで道を探し、Googleマップで道路を見ながら来てくれますので、SNSはほんとに重要で、インスタの動画や写真アップなど、私たちも力を入れているんですけど、徳島県の認知度アップも込めまして、若い高校生などの感性などで色んな動画を出してもら

ったり、何かそういうことをしていただけないかなと思っております。

(霧委員)

こんにちは、海陽町から参りました、霧と申します。

普段は、地域のスポーツ振興に力を注いでいます。

スポーツツーリズム的なイベントをやったりとかしてます。

そういった観点から今回このような席に招かれたのかなと思ってます。

まず、この資料4の施策を見させていただいて、基本の施策のところですごく気になるところが沢山あるんですけども、「①観光産業を支える人材の確保育成」、この人材というのがどういった方を確保して、そして育成もどうやってするのか、とすごい気になりました。

さっき、「観光アカデミーの開催」というので、これのことかな、と思ったりしていますが、具体的にどういったものなのかというのと、地域で活躍する観光人材が本当に大切だな、というのが、私たち県南の方でやって思うので、ここに書いている観光人材の即戦力強化のために、どういったことを考えているのか、気になったんで聞いてみたいと思います。

あと④ですね、先程から皆さんずっと言われているんですけども、このSNSとかデジタルマーケティング、私も実際、皆さんもそうだと思うんですけど、1日このスマホを見て、SNSを見るというの、1時間どころじゃないくらいしょっちゅう見えています。

実際私も地元の情報とかイベントで行きたいところ、食べたいもの、SNSから殆ど情報を得るのが実情なので、これから本当に大事だと思うんですね。

ここにまさに有効活用と書いてるので、どんな活用するのかというのもすごい気になるんですね。

どういうことが強化っていうのかっていうと、やっぱり行政の方ってまずHP（から作り込んでいく）、っていうのはいくら綺麗に作っても今ほとんど自分から見に行くっていうのがないと思うんですよ。

どっちかっていうと、SNSとかインスタで、自分がフォローしている人が挙げたものがなんとなく流れてきてそこから情報を得るというのがほとんどなので、そういったフォロワー数が多い人とか、旅行が好きな人は旅行のそういうの（情報）をたくさん発信してる人をフォローしてますし、なのでそういう方々にちょっとアプローチして、例えば徳島県のモニターツアーに参加しませんかとか、こういったものがあるので、ちょっと情報を流してもらえませんかとか、具体的にそういった方たちを把握してアプローチするというのが、HPとかを何かをするにあたって作るよりも、インフルエンサーとかそういった人たちに働きかけるというのが、とても大事なんじゃないかなと思います。

あとですね、ここからは夢の話というか、私は実は大阪から12年前くらいに県南に移住してきました。

実際大阪にいた時は、徳島に来たこと無かったんですね。

サーフィンの関係だったんですけど、主人がサーフィンをしてるんですけど、ほとんど徳島に（来たのは）は数回で、和歌山の方が多かったんですね。

来た時もあるんですけど、鳴門の渦潮を見に来た記憶はあります。

でもそこから先は行ってないんですよ。そこで止まっちゃったんです。

そこから先、足を延ばしてもらって何か商品開発というのがとっても大事で、結構鳴門で止まってる人多いと思うんですよ。

だから、そこから先一歩進んでもらえる商品を作るというのと、で、すごい大事なのが、さっき仰ってた食ですね。ここに来て、めちゃくちゃ海の幸が美味しいと知ったんです。

大阪にいた時は全然知らなかったです。

で、県南は特にこれから鰯とかハマチとか伊勢エビとか、めちゃくちゃ美味しいんで、そういうのももっともっと食べてもらいたいんですけど、白浜のとれとれ市場、違う県のことになりますけど、あぁいったどこかに行って、1カ所で美味しいもの食べれたり、美味しいもの買えたり、購買意欲は、旅行来た人ってすごいから、買って帰ると思うんです。

でも徳島ってそういうところ、あまりないですよ。

県南に行って、友達とか家族が来ても、買い物するところがない。

私も結構買い物好きなので、使いたいんですけど、使うところがないんですよ。

で、1カ所で大きなところで、何でもそこに行ったら買えたり、体験できたりとか、夢のようところがあれば良いな、ってすごく普段から思ってます。

（三隅委員）

私も個人的な教育活動を通しての対面の話で感じたことを話したいと思います。

コロナで対面授業ができないのですべてオンラインになりました。

留学生もいなくなったので、海外の大学と（オンラインで）つないで、特に中国の寧波大学とか青島理工大学と繋いで授業した中で、これはいいことだと思うんですけど、紹介をするために市と県のような（PR用）コンテンツを探して使ってみたんですけど、すごく見やすくて言語の訳、日本語学科の学生さんなんて訳はいらないんですけど、訳もついているから説明もしなくてよかったし、非常に見やすくて、ドローンが使われてたり、キャラクターも出てきたりというので、非常に中国の学生に好評でした。

日本のことが大好きで、行ってみたいと思ってるのに（来られないので）、来る代わりに徳島を、日本じゃなくて徳島を紹介しました。ツーリズム（協会）の黒田さんに来てもらって、（新町川）クルーズ船に乗ってるのを体験してもらって、「はい、（写真を）撮りましたー」と黒田さんがベラベラと喋るっていうのを聞いて、「すごくおもしろかった」というのを、オンラインなんですけどリアルなようであったと。

食べ物も紹介したけど、食べられなくてみんな「ブーッ」というのはあったんですけど、「必ず（リアルで徳島に）来てくださいね」ということが言えたので、これがオンラインからリアルに繋がる1つのいい（きっかけ）。

そして、（今後）リアルを味わってもらう時に私たちが（徳島に）いますから来てくださいね、ということが言えたかな、と思います。

もう一つ、デジタルファシリテーション入門という大学の公開講座を開きました。

7月から9月に10回、その中で10回（目が）9月に終わったんですけど、「どうしても徳島に行きたい」という人達の声が50人ぐらい受けてたんですけども、12名が来てくださって。

やっとバスを借りて、徳島に飛行機で来たりとか電車とかJRで来て、集まって、それから1泊2日で美波町。

今日影治（町長）さん来てないんですけど、1泊2日で古民家に泊まって、薬王寺に行ったりえびす洞に行ったりという、1泊2日、3年ぶりの引率旅行ができて。

そこに一般の方で、非常に地域おこし、組織改革の意識の高い（方が）、デジタルを使ってファシリテーションをするという、男性6名・女性6名の12名、いろんな職場の方が来てくださって、そこに留学生も一緒に連れて行ってというので。

私は大学が泊まってはいけないという規則があるので、日帰りで、一般の方は泊まってっていう形で古民家に泊まっていただいて、そこで地域のあわえさんの方とか、谷屋さんとかを修復してることの話とかというので、地域の人材の方にお話をさせていただいて。

講座のワークショップっていうのが1泊2日、1日目はフィールドワーク、2日目はワークショップで、ハーペスト、つみとったものはありますか、というので。

みなさんの中ではオンラインとリアルを使った人のつながりということと、自分達、よそものが来て地域の再発見をしていくということ、そのことを本当に「今、私達やってますね」というのを確認ができた。

実はこの公開講座はこのままで終わらなくて、来年は最初から真ん中にリアルを入れたオンライン講座にしていきながら（実施していきたい）。

今回来られたのは東北から広島までの方で、その人達がまたどんどんデジタルでやってくれる人達でfacebookグループを作ってるので、安心していただけるかなと、私も実験的にやってみたんですけど、オンライン・リアル・オンラインで人がいます、ということと、観光資源はいっぱいありますということを徐々に紹介して行って。

私も2000年にこちらに来たので、（それまで）徳島に来たことなかったの、一からみなさんに徳島を教えてもらって勉強して、本当にみなさん「何もない」と仰るんですけど、魅力のある地域だと本当に心から思ってますし、私自身も第二の故郷になってますし、今回の人たちが徳島に初めてきた、四国も初めて来たという人がほとんどだったんですけど、何かしらお持ちになって帰っていた

だいていると。

(このように) 観光というところからは入らないけれど、地域おこしの一つの具体例としての美波町を見ましょう、というところから人を呼んで来て、というような教育の中で観光を使って地域を支える、という教育活動のプログラムを作れたらいいかな、というのを考えてるところです。

(池上委員)

徳島新聞社の池上と申します。

私は観光行政・観光業自体はあまり知識がございませんので、感想という形になりますがお許し願えればと思います。

私の会社のグループ企業の中には観光関連、空港関連の会社もございます。

3年ほど前から前からはまりましたコロナの影響で、ほぼ、事業停止に近いような状況になって、先ほどもある方が仰ったと思いますけれども、ようやく回復傾向というか元に戻り始めた、と実感しております、そんな中での第4期の観光振興基本計画というのが大事なものになるんだろうな、と思います。

その中では、基本計画の場合4年なんですか、そのちょうど真ん中あたりに万博が開かれるようになると思いますけれども、数十年に一度、日本に回ってくるかどうかというようなイベントですので、このチャンスを生かして徳島の飛躍につなげたらいいのかなと思います。

ここの部分により力点を置いた計画にした方がいいかなと思います。

旅行自体で特に印象に残るのは食文化、食に関してではないかなと思っておりまして、先ほど出てきました県南部の食材の豊富さ・大きさとか、そういったものを楽しむとか紹介していく中で、インバウンドとか国内も含めてですけど、体験型といいますか、田舎の中に入って、徳島に住む皆さんと交流するという形もあっていいし、食を通して、食を中心とした宿泊というか、オーベルジュという、そういった富裕層を中心としたメニューとか、幅広いメニューというのを広く徳島にもあるんですよということを周知すればより、多くの方が来ていただけるんじゃないかという風にも考えます。

それと先ほど、武知さんでしょうか、仰っていたスポーツツーリズムの中で、第三期の計画には「徳島ヴォルティスのJ1昇格を期に」という項目が載ってましたけど、第四期(の初年度)はJ2なのであまり強調されてませんけれども、徳島ヴォルティスでプロスポーツの楽しさを県民の方も認知しましたし、その影響力というのもワールドカップを見ても分かりますように、かなり大きなものがあると思います。

さらにBリーグ、バスケットボールのプロチームを作ろうという動きもありますので、そういったスポーツを通じた誘客ということも柱立てにいれてもいいんじゃないかという風にはと思います。

(内藤委員)

徳島市長の内藤です。私からは3点述べさせていただきたいと思います。

1つ目は万博についてなんですけれども、徳島市としても万博の首長連合だったり、夢洲機構であったり、そういった所に入って、情報を得ながら、観光庁、経産省とかと連携しながら頑張って機運を高めていきたいなという風に思っています。

そういう中でインバウンドの部分、ここにも外国人の周遊促進、旅行商品の造成という言葉が書いていますけれども、やはりいかにお金を落としてもらうか、いかに高額なお金を落としてもらうかっていうところが肝だなあ、と思っていますので、今、東部のDMOの方でもかなり旅行商品の磨き上げという部分でエアトラベルさんのご協力をいただきながらやっているところです。

先日も染め粉の方をやっている会の方がやってきて、藍染について学びたいということでやってきたんですが、その時に西新町で生地を爆買いして帰っていったみたいな事例もありますし、先ほど買い物するところがなかなかないというお話もありましたけれども、やっぱり何かに特化して、ニッチな部分で関連する所にお連れすれば、いっぱい買っていただけるというところもありますので、そうしたニッチな分野の磨き上げ、徳島らしい磨き上げというところも県とも連携しながらやっていければな、という風に考えています。

2つ目はバリアフリー観光についてなんですけれども、ここにバリアフリー・ストレスフリー対応というところが入ったというのは非常に喜ばしいことだと思っています。

徳島市としても国交省さんとかもやられてますけど、車椅子のバリアフリーマップを作られているWheeLogさんと連携して街歩きなどもやっております。

そういう中でももちろんハードな部分を直せばいいということもあるんですが、やっぱりそこにはなかなかお金がかかるというところで、ソフトな部分なんとかしたいよね、というお話になった時に車椅子で観光にこられる方って、結構入浴を諦められている方が非常に多い、というようなお話があります。

なので、例えばハードな部分がなかったとしても、介護職の方とかにホテルに入ってもらって入浴の介助ができるようにできればいいんじゃないかとかそういったお話も今させていただいているところなので、そういったソフトの部分も、また県ともお話をさせていただいて、そこをバリアフリーの向上をさせていただければなあ、という風に思いました。

3つ目はデジタル活用についてなんですけれども、他にもSNSインフルエンサーマーケットについて、皆さん先程来お話しもされておりますけれども、徳島市の方でもインフルエンサーの方と協力して動画を作ったりとかいろんなこともやっています。

やっぱりインフルエンサーの方がやるとtwitterで例えば動画を流しても、一瞬で2万回再生がtwitter上だけで回るといった部分もありますのでDMOも含めて、そういったインフルエンサーさんと一緒になって、きちんと動画を作って発信していくというところもありますし、後は阿波おどりってyoutubeですごく再生回数が多いです。

これって別にうちがどこかに委託して、県がどこかに委託して作ってるわけとかではなくて、個人の方がたくさん上げられてる部分は何十万回、何百万回見られているようなところがありますので、例えば、今って切取り動画がすごいあって、みなさんそういったものを見られるので、例えば字幕とかをつけて、英語圏、フランス語圏、海外にどんどん発信していくようなことがやれば、かなりそれが再生回数が回って、でその先どうするかが問題ですよ。

阿波おどりの動画見られるけど、じゃあ、どこに行けば見えるのか、徳島っていう場所はどこなんだ、ということも次、海外の人にどうやって認知してもらおうか、どうやって認知を取るかがというところが肝だと思うので、そこを一緒にやっていけたらな、という風に思いますし、どういう風に着地させるのかということ考えていければなと思っています。

後はやっぱりデジタルマップを、例えば京都で行ってるような祇園祭りも含めて、普通の観光マップを紙で刷るのではなくて、皆さん先ほどからスマホで見られるという話がありますけど、やっぱりマップもスマホで、グーグルマップとかいろんなもので見られていると思うんですよね。

阿波おどりは日常にあまりないじゃないですか。

もちろん阿波おどり会館とかありますけど。

どういうものを恒常的に来てもらえるか、って考えた時に、徳島市の場合は、私は「パンとコーヒー」だと思っているんですが、祇園祭りをデジタルマップ化してるような会社さんが各パンとコーヒーのデジタルマップを徳島市は作ってもらえることになったので、そうゆう絵とかデジタルで見る、分かりやすいデジタルマップとかコラボをしてちゃんと見やすいスマホマップみたいなのをきちんと作って発信していくことによって、観光客の人がどこにいけばいいのか、どこに何があるのか、何を徳島は売っているのかというのがわかりやすくなると思うのでそうしたものを活用していくのもいいのかなという風に思いました。

先ほど、飛田さんが「駅メモ！」のことを仰ってくれましたので、補足しておくともモバイルファクトリーという会社がやってる「駅メモ！」という位置情報ゲームとコラボして「徳島ると」というキャラクターを作ったんですね。

その時に（キャラクターに）遊山箱を持たせて。そうすると遊山箱ってみんな知らないじゃないですか、普通の人。徳島の人には知ってるんですけど。

で、そうすることによって遊山箱の問い合わせも増えて、「これって何ですか、欲しいんですけど」という人が増えていったんですね。

だからやっぱり、いつもだったら届かない層の人にどうやって届かせるか、っていうことを考えて、どうやったらそれで観光に来てもらって、買ってもらえるのか、そのコアなファン、何も知らない人達にそういうものをどう売するのか、っていう着地まで考えて設計しないと、観光とか物産を売る、っていうことは難しいと思うので、私はそういうことをやっていきたいと思っていますし、そういう部分で県とも連携していきたいなと思います。

(梯副会長)

副会長を仰せつかっております日本旅館協会の梯と申します。どうぞよろしく申し上げます。

いつもこういう会議で委員会に出るのは宿泊者数が日本一少ない県だよ、という非常に我々の業界に対して、お叱りといいますか、そういうお言葉を頂戴しておるといふ気持ちになりまして、非常に針の筵に座っておるといふような状況でございます。

数値目標でもある宿泊者数が「日本一少ない県」ということが、我々業界にもいつも課題になります。

どうやったら宿泊者数が増えるのかなあ、ということを考えております。

その中で、この資料4の骨子案の中にも方向性の中でも3番目、観光が本県経済を支える成長産業になるよというよなことで、「産業」というお言葉を使っていたいておるんですけども、まだまだ、徳島県内における宿泊業が産業というところまでなりえていない、「家業」と。

代々、継いできた家業であったりとか、そういうレベルでしかまだなくてですね、まだまだ県内の人々のマインドも、産業ということではなくて、「梯さんがやってるホテルだよな」という、あくまで家業っていう部分での位置づけにしかかってない、というところがあります。

ですから、それをいかに家業から産業に引き上げていくのか、それがまだまだこれから徳島県としては取り組んでいかなければならないところではないかな、と思っています。

我々、業界の要望で、その店のその商品でファンになり、その店のサービスでその店のファンをやめる、という言葉があります。

簡単に言うと、このラーメンが美味しいなあ、ということでラーメン屋さんに通うんですけども、持ってきたおばちゃんが指を突っ込んで、「はい」という形で出されると、その店に行くのはラーメンは美味しいけどちょっと躊躇してしまう。

そういった意味のことわざと受け止めておるんですけども、我々の業界も、皆さん今日も仰っていただきましたけれども、自然がいっぱいあって食べ物が美味しいよね、というご発言はあったんですけど、そしたらそれを提供しよう、と我々がサービスマインドでまだまだ産業というものになりえていなくて非常に雑、ということで、先ほど統計の中にも出てきておりましたけど、リピーター数が少ない部分はそういった所に表れているのではないかな、と思っています。

また、我々の業界の用語なんですけど「出迎え三步見送り七歩」という言葉があります。

「こんにちは」とお客さんが来てくれて、「ようこそ」と三步出て行くんですけど、最後はやっぱり七歩、「また来てね、また来てね、また来てね」とそういう気持ちが本当にないと、次につながるよ、よく高級旅館に行くよ、来た時にバスを仲居さんが迎えてくれるんですけど、出て行くときにこれでもかと言うくらいに「また来てね」と言ってくれます。

多分徳島県の人間としてはそういう部分が全く足りてない、「せっかく徳島に来たんやけん、また、

もっと来てよ、2泊目もして3泊目もしてね」とそういう気持ちがまだまだ醸成できていない。

そういった意味で産業になりえてなくて、家業というものになってるのではないかと思います。

これから関西万博を控えて、いろんなお客様に来ていただこうと、コロナで一旦人流がストップいたしましたので、いろんな意味でスタートラインが1つになったと思ってます。

ですから、いろんなところからいろんな人に来ていただく、という部分では、これから本当に関西万博をフックに頑張っていかなければいけないと思うんですけども、最終的にはサービスマインドというものをいかに県に植え付けるか、それを一旦どこかで厳しい言葉を我々業界にしろ、お食事を提供しているお店にしろ、「あんたの所、これができてないけんあかんのだよ」とそういうことをもうちょっと辛辣に発言をする場を設けていって、そしたら「ここをこう直さないかんのではないかな」、「そこを直したらもう少しよくなる」と（なるのではないかな）。

いつもいいようには言うてはくれるんですけど、「あんたのところ、これあきまへんで」、そういうことがなかなか、みんなで出し合う場が少ないような気がしています。

とどめをさす言葉になってしまうと、僕らの心がポキッと折れちゃうんですけども、愛情のある言葉を投げかけていただくと。

そういう場をどこかで作っていって、もう少し「ここをこう改善しようよ」、「ああ改善しようよ」とそういう場もやはり少し観光で家業から産業へということで引き上げていくのであればそういう場を設けていかなければいけない、これは我々の業界自体の自戒も含めてということで発言させていただきました。

（矢田会長）

ありがとうございました。

後半の部分で利穂課長からコメントがございましたらよろしく申し上げます。

（利穂課長）

ご意見ありがとうございました。

いただいた意見の中から、リピーターが次に来たくなるような仕掛けについて、ご意見いただきました。

何かというと食でありますとか、体験ですね、そういったあたりを充実させていく必要があるのかなという風に考えております。

それから情報発信のところではインフルエンサーの話をいただきましたが、県としても海外の誘客、インバウンド向けのPRとしまして、インフルエンサーの方をご活用させていただいてPRをしているところでございます。

引き続きインフルエンサーの方を活用させていただいてPRに勤めたいと考えております。

それから着地型コンテンツですとか、スポーツツーリズムでありますとか、その地域ならではの地域の方が知っているコンテンツでやっぱり売っていくという、これは先ほどのリピーターと繋がっていく思うんですけど、徳島ならではのということで、やはりそういうものを磨き上げて発掘も含めてやっていかなければいけないのかな、と感じました。

先ほど鳴門にはよく来るけど県南の方（には行かない）という話もありましたが、県としましても東部地域、地域連携DMOは4つあるんですけどそのうち、イースト（とくしま観光推進機構）と（四国の）右下（観光局）とそらの郷なんですけど、それをつなぐ、今まではそれぞれで頑張っていたんですけど、それをつなぐような施策としての取組を協議会を作ってやっているところがございますので、引き続き力を入れてやっていきたいと考えております。

ご質問あった所で「とくしま観光アカデミー」ということで、人材育成ということでやっておりまして、昨年やらしていただいたんですけど、今年も11月15日からやっておりまして、観光人材の即戦力強化とかでありますとか、次代を担うような育成とかを目的に3つのコースを設けてやっておりまして、ビジネスコースという、これは観光従事者の方を対象として、チャレンジコースとしましては、現在、高校生・大学生の観光に興味のある方、地域で活躍（コース）ということで地域観光ボランティア、徳島GGクラブの会員さんを対象として3つのコースを設けてやらせていただいております、これらを通じまして、より観光に理解を深めていただいて、徳島の観光に貢献していただければ、ということで実施しています。

それと後、もう1点、お話をいただいた二次交通の件でございますけれども、レンタカーとして四国四県で取り組んでいるものもございまして、本県でもおもてなしタクシーということで取り組んでおるところでございますけれども、公共交通機関についても非常に需要があると認識しております。

それからもう1点、若い世代ですね、先ほどからペルソナでありますとか、ターゲット層をファミリーであるとか申しあげましたが、若い世代にも阿波おどりでありますとか、そういったところですね、興味をもっていただくような仕組みも必要なのかな、とご意見いただいて感じたところがございます。

（矢田会長）

ありがとうございました。

追加でこれだけは聞いておかんといかん、あるいはこれだけは言いそびれた等ありましたら。

（特に挙手なし）

（矢田会長）

コロナでこうやって集まることができず、久々にこうやって皆様のいろんな意見を聞いて、やっぱ

り観光はいろんな人のいろんな意見を聞いて情報交換をし、一体感を持って取り組んだエリアが選ばれるエリアであり、生き残るエリアなんだな、と改めて思うと同時に、せっかくこのメンバーが揃いました。

各界の代表する皆様方でございますので、いろんな場面を通じて、会だけにとどまらず、いろんなところで意見を交換しあって（いただきたい）。

やはり観光は徳島県の大事な分野であると、これは誰でも思っていることでございます。

これから産業として観光が成り立つようにやっていかないといけないということで、今日は第1回目でございますので、顔合わせという形で十分な発言の時間は取れませんですけども、引き続き感じたことを出していく場にしていきたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いします。

コロナで停滞したところから、急に観光需要と供給のミスマッチが起こっておりますので、この辺を何とか、人の不足とかいろいろあるんですけども、「徳島に二度と来るもんか、こんなところ」と言われないように、また言われそうな場面があったら協会にも言っていただいて、みんなで手分けしてしっかり対処していきたいと思っておりますので、私のところも含めましてよろしくお願い申し上げます。

それでは本日の各委員からのご意見を踏まえ、観光振興基本計画の「素案」について、事務局に作成していただきます。

また、次回開催は、来年2月頃で、事務局で日程調整をお願いしたいと思います。

議事の方は以上でございますが、その他に、事務局から連絡事項がございますでしょうか。

（事務局）

- ・骨子案について、欠席の委員にも資料を送付の上、意見をいただくこと
- ・県議会にも報告し、意見聴取をすること
- ・議事概要について、内容を会長にご確認いただいた後、県ホームページで公表させていただくこと
- ・次回開催は、後日、日程調整の上、「素案」についてご意見をいただきたいことを報告。

（矢田会長）

それでは時間も参りましたので、本日の審議はここまでとさせていただきます。

委員の皆様におかれましては、熱心なご意見、ご質問をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は大変お疲れ様でございました。これにて審議会を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

4 閉会